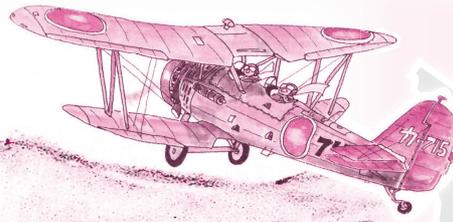


# 予科練 平和記念館だより



予科練平和記念館整備推進室では、予科練や海軍に関するお話しや写真を集めています。ご存じの人はぜひご一報ください。

## 胸

いつばいに吸い込みたくくなる梅の香りが、春の足音を届けてくれる季節になりました。県内には筑波山梅林、水戸の偕楽園など梅の名所がたくさんあり、花の時期には県内外から多くの人でにぎわいます。

なかでも日本三名園の一つである偕楽園は、水戸藩九代藩主徳川斉昭が、千波湖を望む七面山を切り開いて1842（天保13）年につくったものですが、藩士の憩いの場であるだけでなく、「民と偕（とも）に楽しむ」という考えのもと、「3」と「8」のつく日には一般にも開放されていたそうです。前期の將軍徳川慶喜の父親で、「烈公」と称された斉昭の「偕楽」の思は、167年たった今日でも受け継がれています。

予科練平和記念館も、多くの人に親しんでいただけるような場所になれたらと思う今日このごろ、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。今月号は、予科練平和記念館整備推進室の1年をふりかえります。

## ●今年1年のしきりこ

今年度の大きなできごとは、10月に安全祈願祭が行なわれて、予科練平和記念館の

建築がはじまったことです。すでにご存じかもしれませんが、記念館の外観はブロックを積み上げたような市松模様をしています。ちよつとかわった外見ですが、これは国内でもあまり例がないかたちなのだそうです。平成22年2月のオープンに向けて、工事の様子を阿見町ホームページの予科練平和記念館整備推進室のページでもご紹介していきます。

8月には、予科練展Ⅲ『昭和の記憶』展を開催しました。平成18年から3回にわたって、阿見町が収集してきた資料の概要をご覧いただきましたが、今回は主に予科練以外の戦時の資料や生活資料などに焦点を当ててご紹介しました。8月2日から17日までの14日間で1266人の来場があり、去年に引続きのべ17人のボランティアの皆さんが活躍されました。図書館2階で行ってきた夏季特別展はこれで終了となりますが、展示した資料は記念館の常設展や企画展にてご覧いただけます。ですので、どうぞおたのしみに。

11月から12月にかけて、戦時を生きた9人にインタビューし、その様子を撮影しました。元予科練習生や特攻隊の訓練経験者、土浦海軍航空隊

で看護婦として勤務中に空襲を体験した人など、皆さんお忙しい中貴重なお話を聞かせていただきました。

また今年度は、台湾より、日本統治下の台湾で予科練習生となった人をお迎えしてお話をうかがうことができました。これらの映像は記念館内でご覧いただけるようになる予定です。『予科練平和記念館だより』でも内容をご紹介していきます。

4月から現在までに、1288点の資料が寄贈されました（1月末現在）。予科練習生に関するものばかりではなく、土浦海軍航空隊（現陸上自衛隊武器学校一帯）で訓練をしていた予備生が使用していたものや、軍医や従軍看護婦に関するもの、海軍兵学校の教科書、元予科練習生が描いた飛行機の油彩画、図書、民具など、さまざまな資料が集まりました。また、元土浦海軍航空隊だった場所にある霞ヶ浦高校より、校内で保管されていた鐘や予科練習生のテスト用紙などが寄贈されました。阿見町出身の予科練習生の遺品がまとまって寄贈されたりしたことも、大きなできごとのひとつでした。

今まで資料を大切に保管され、町に寄贈してくださった

皆さんに深くお礼申し上げます。資料収集は引き続きおこなってまいりますので、今後もご協力をよろしく願っています。

4月から『予科練平和記念館だより』では記念館の動きや資料の紹介、戦時経験者の体験談などをお届けしていきます。これからの一読いただければ幸いです。

◆ ◆ ◆  
前述の偕楽園には約1000種類3千本の梅が植えられているようですが、その中に、個人的に好きでこの時期によくたずねる梅の木があります。穏やかでありながら芯の強いいたずまいで、珍しい黄緑色の花を咲かせるその木は、「月影」という小さな札を下げています。花が開く直前の、つぼみがふつくと膨らんでいるところが一番美しい黄緑色をしているように思います。皆さんも機会がありましたら、静かな春の喜びをぜひ探してみてください。



▲予科練習生も偕楽園へ（昭和15年ごろの写真）